

既存の建築・墓石事業にどどまらず、 新たな企画提案型事業で未来をつくる

創業一百九十年 碓(株)芳村石材店(京都市上京区)



山田社長と、
八代目を継ぐご息女の麗(うらら)さん

京都市中心部を流れる堀川は平安京造営にあたって整備された運河といわれる。いまは小川のような水量だが、その昔には、その水運を利する多くの材木商が川岸に軒を連ねたそうだ。

(株)芳村石材店も古くから堀川沿いに店を構える。もちろん石の運搬に舟を使用していた。正確な仏閣の石工事を多数手がけています。基本的には宮大工さんからの仕事で、建物の基壇や束石、階段、石張り、石垣、また関連して狛犬、鳥居、灯籠などの石工事全般です。約十年前までは建築が六割で、残りが墓石。歴代天皇陵の鳥居や玉垣などの石工事にも携わっています」

七代目・山田俊行社長はそういう。もともと

東京で広告プランナーとして活躍し、先代の故・芳村誠二氏のご息女と結婚。二十四年前に四十歳で入社し、二〇一〇年に七代目を継いだ。「約

十年前までは」というのは、ちょうどその当時

時期は不明だが、創業は享保年間、ゆうに二百九十年にはなろう。同社の目の前の岸には船着場の名残がある。石をおろして手加工でつくる石工たちの姿が目に浮かぶ。

「もともとは建築の仕事が中心で、主に神社

から前職で培った企画力と発想力を生かして、新たに企画提案型の事業を手がけるようになつたから。「いまは建築・墓石・企画提案型をバランスよく請けています」という。

企画提案の内容が気になるところだが、まずはざっと建築と墓石の状況に触れておこう。

まず建築であるが、前述のとおり社寺建築がメインで宮大工の下請けが基本。京都という土地柄もあるが、奈良等の周辺地域もあわせて新築・改修工事とともに仕事は途切れない。ただ職人の高齢化や減少は課題で、文化財関係の仕事

◆ 碓(株)芳村石材店の歴史

創業は享保年間。もとは白川石を産出する北白川(京都市左京区)が創業地といわれるが、禁門の変(1864年)のときには堀川沿いの現在地に店を構えていたと伝わる。屋号の「碓」は「いしも」と読み、代々襲名される「茂右衛門」と「石」を組み合わせた創作文字。長く宮内庁の天皇陵での石工事を手がけ、また京都の古刹・名刹での石工事も多数。社寺や数寄屋など伝統建築の石工事に付随し、文化財関係の仕事も手がける。現在は8代目も家業に入り、新たな事業展開にも力を入れる。



も多いことから、その保存・継承のためにも若手職人の雇用・養成に積極的に取り組む。

墓石は主に市内を中心に府内の多数の寺院墓地と靈園での仕事になり、圧倒的に国産材の扱いが多い。特に大島石、庵治石が出やすく、また求めやすい真壁小目も積極的に提案する。当然、各産地（丁場・工場）との関係性を大切にし、全国的な傾向と同じくお墓離れが危惧されるなかで、「つくり手（产地）が見える安心さ」をお客様に伝え、付加価値を高めている。

そのなかで新たな展開として、山田社長によ



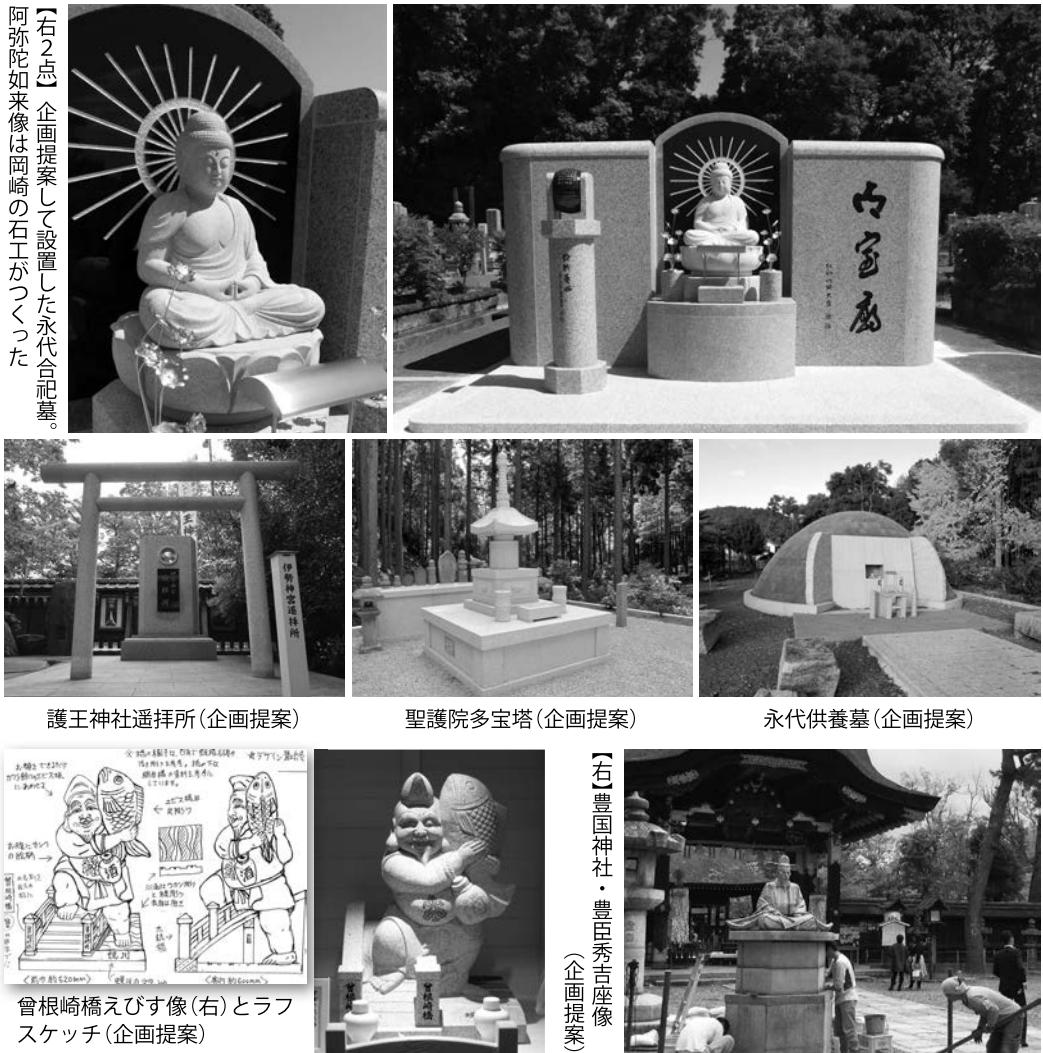
明治年間の同社の店頭風景。大勢の職人たちの中央に首を振る牛が写り、巨石の運搬作業の際に撮られたものと思われる

る企画提案型事業が着実に成果を生んでいるのが、同社の現状であり、強みである。老舗店でありながら、新たな分野を切り開き、しかもその内容は多岐にわたる。既存の建築・墓石事業の枠に収まらない面白さにあふれる。

例を挙げると、有名社寺での各種石工事から永代供養墓の企画、各種記念碑・石碑の企画、高僧の聖地づくり、ゆるキャラをはじめとする各種キャラクターの製作等まで実に多彩だ。特筆すべきは、それらはいずれも山田社長自らがデザインし、細かな図面を描き起こし、プレゼンして採用されたものであるということ。

「実際に現地を確認・調査し、ヒアリング等も重ねて、そこからアイデアをまとめ、ラフスケッチと詳細な図面を描いて提案します。ただ目新しいものをつくるのではなく、たとえば石仏の光背の金箔は京都、石彫刻は岡崎と、それぞれ伝統工芸士の方にお願いするなど、その空間にふさわしいものをお勧めしています」

山田社長は他業種から入ってきたため、自らを「異端」という。しかし入社当時の心境を聞くと、「文化財をはじめ、日本古来の伝統を守



【右2点】企画提案して設置した永代合祀墓。
阿弥陀如来像は岡崎の石工がつくりた
【左】企画提案して設置した永代合祀墓。

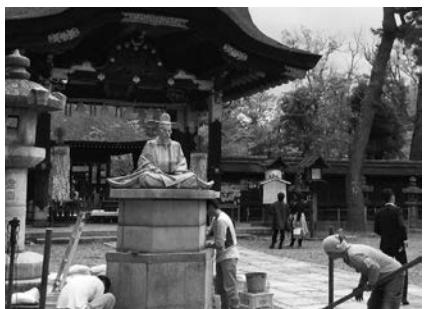
また、豊臣秀吉を祀る豊国神社には像本体と台座ともに清水焼の秀吉像があり、阪神淡路大震災で台座が壊れて以来、同像本体は長く蔵に保管されていた。その再興を相談された山田社長は、秀吉の墓である豊国廟に残っていた鉄灯籠の台座の石（鉄灯籠は戦時に供出）をリデザインして再利用する案を提案し、昨年五月に

のも意味が深い。

また、秀吉の墓である豊國廟に残っていた鉄灯籠の台座の石（鉄灯籠は戦時に供出）をリデザインして再利用する案を提案し、昨年五月に

るには、誰かが自らの意志で手を上げなければいけない。それなら『自分がやろう』と決めた」と、その覚悟を話した。もともとプランニング、モノづくりが好きだが、歴史を背負っているのだから単なるユニークさではない。押さえるべきポイントを押さえ、よりよいものを企画提案するから、その採用率も高い。

【右】豊国神社・豊臣秀吉座像
（企画提案）



曾根崎橋えびす像(右)とラフスケッチ(企画提案)



二十四年ぶりの公開となつた。

「すべてを新しくするのではなく、文化財的価値の高いものに新しい価値を与えてリメイクすることが大切だと考えています」と山田社長。永代合祀墓の阿弥陀如来像にもいえるが、その企画提案内容には何かしらの歴史的な裏付けや物語を含ませている。だからこそ「没になることは少ない」のである。

「企画は私自身で考えますが、形にするのは

社内外の石工の智恵と技術があつて成り立つて可欠な京都の伝統的職種で構成する『文友会』

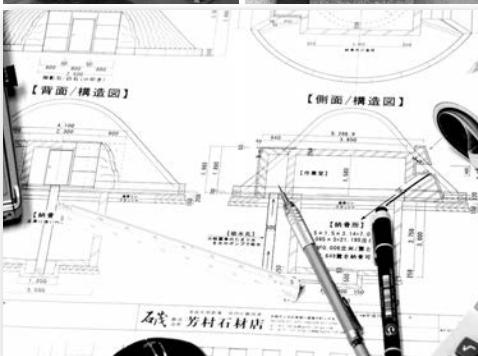
おり、とても感謝しています。また岡崎をはじめとする各産地の協力も不可欠で、業界外でも他業種の職人、伝統工芸士等との連携が必要です。だからこそ、今後はもっと国内での連携を深めたい。そのネットワークづくりにも取り組んでいるところです」

そういえば、前にゆるキャラの企画・製作と書いたが、これは造園、瓦、表具、社寺・数寄屋建築、畳、そして石工など、文化財保護に不^{可欠な京都の伝統的職種で構成する『文友会』}が、すでに八代目が決まっている。山田社長のご息女・麗さん^{うるる}が家業を継ぐために一年ほど前に入社した。麗さんは大学を卒業後三年間、得意な英語を生かしてリゾート業界で活躍。山田社長と同様、他業種での経験を生かして同社に新しい風をもたらすと期待される。

「既存の価値観にとらわれず、柔軟な発想で

多方面との融合も考えながら、石材業の可能性をさらに広げていきたいです。でもまだ入社一年。もつともっと勉強を深め、自分自身が成長できるように頑張ります!」

麗さんはそう話してくれた。七代目と八代目の共同作業が楽しみで待ち遠しい。



【上】護王神社手水鉢(岡崎加工) 【中】右はオリジナル招き猫・ニャーニャン。左はゆるキャラ・文化財ドック

くん(いすれもアザイン制作) 【下】山田社長自ら詳細図面を作成する

◎ 磯(いそ)芳村石材店

京都市上京区東堀川通櫻木町上ル五町目208

TEL 075-211-2711

<https://www.kyoto-ishiyama.com/>